

学 習 日 誌

1月 23日 (金)	講 師	長谷川 孝 先生	
出席者数	46名	記 録 者	7年 2班 白石 講一
講 座 名	社会的課題講座 4「時事サロン」		
プログラム担当者	東地区文化センター		
時 間・場 所	13:30 ~15:30、第1会議室にて		

【学習内容】

テーマを2つ決めてグループディスカッションを行った。

- テーマ：戦前と戦後の学校教育、思想や考え方の違い
戦前を知らないなので、このテーマを選ぶグループは少なく1班だけであった。
意見としては、戦前の教育は「竹やり」教育であった。戦後の男女共学には違和感があった。
- テーマ：敗戦後の日本（教育、政治、経済）、終戦80年の今
4班がこのテーマを選んだ。
意見としては、国民が諸問題を自分の問題として捉えていない。教科書を墨で塗りつぶしたことを忘れてはいけない。民主主義が行き詰っている
- テーマ：現在の政治や政治家について（戦争を知らない世代が司る政治）
6班がこのテーマを選んだ。
意見としては、高市総理の話は分かりやすい。国民の生命を守り、国民に分かりやすい政治を望む。政治家が近現代の歴史を学んでいない。
- テーマ：現在の日本、世界の情勢について（新しい戦前にしないために）
5班がこのテーマを選んだ。
意見としては、トランプはおかしい、分からない。世界で独裁政権が多い。民族、宗教の戦争が多い。戦争に向かっている気がする。中国、北朝鮮に対抗するためには核を持つべき。

長谷川先生のまとめ

戦争体験を話す人は少ない。それほど戦争は悲惨でつらい体験だった。従って戦争をする方向に行ってしまうのはいけない。戦前の生まれの方の話を聞くのは重要である。

安全保障として軍事強化を言うけれど、人間の安全保障が大切である。平和国家の基本である憲法9条と14条を大切にしなければならない。

昭和憲法は天皇が人民に主権を戻すということを行い、これが主権在民の基本である。

戦争の不安があり、日本も武力で固めなければならないという考えが出てきているが強い日本というのは戦前の考え方ではないか。弱さを大切にする政治家が必要で、平和であることが重要である。

【感想】

長谷川先生は平和主義者であり、強い日本を目指す現代の風潮に警鐘を鳴らされている。核武装についても中国、北朝鮮やトランプのアメリカを考えると一理あるように思えるが、本当にそうであろうかということ立ち止まり考えることが重要だと思った。

